

家族会ニュース

平成30年
春号

編集・発行 白十字ホーム家族会
東村山市諏訪町2-26-1

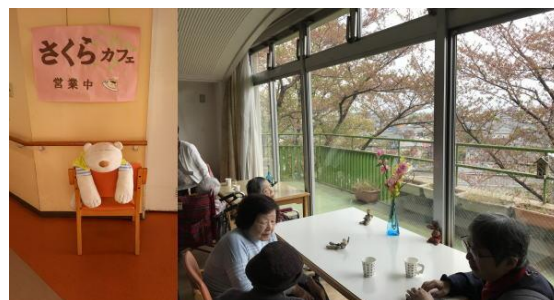
TEL 042-392-1375
<http://www.hakujiuji-home.jp>

春を楽しむ会

平成30年4月5日（木）13時より
春を楽しむ会が開催されました。
各フロアでご家族やボランティアさんと



楽しく桜寿司のお弁当を召し上がってから、各会場のイベントを楽しみました。ホーム内桜の名所 珈琲の香りと共



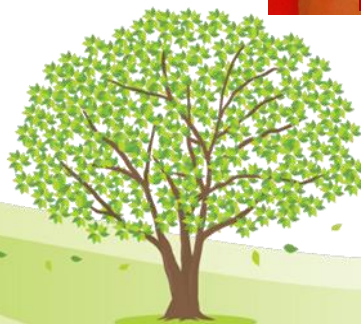
ホーム手作りのお弁当
春の彩り弁当
桜寿司 鱈の樹の芽焼き 炊き合わせ
とんかつ 卵焼き 梅干菜 豚汁



お茶席
1階ラウンジ
八国ホール
至福の一服を



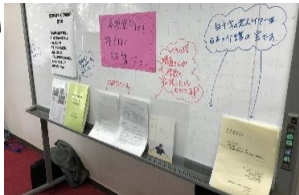
八国ホール お琴尺八の音色を楽しみながら模擬店のソフトクリーム・甘酒・わた飴に行列ができました



おしゃべりカフェ (家族カフェ)



ご家族同士なかなかお話しする機会がありません。今回『おしゃべりカフェ』を初めての試みとして開催しました。受付を済ませた方々が少しの間お話ししたり、お食事の摂れない利用者のご家族と一緒にしてお弁当をいただいたりと、とても和やかなひと時をもつことができました。同じような経験を持つご家族同士気持ちの通じることも多く、お話が尽きることはありません。このような企画を家族会でも考えていきたいと思えます。ご意見をお寄せ下さい



ホーム・家族会発行の資料を展示しました。地域・利用者・家族のために、いろいろな取り組みを行っています。お手元にもお届けしてありますので是非ご一読ください。



行事委員長就任のご挨拶



長らくご活躍された行事委員長の三好さんから、行事委員長を引き継ぎました運営委員2年目の原田正利です。全てが初めての経験で、右も左も過去の経緯もよくわかりません。ホーム職員の方々や家族会の皆さんと一緒に考え、多くのボランティアさんにも支えていただきながら、利用者の皆さんの五感で感じていただけるような行事、参加されたご家族の皆さんにも楽しんでいただける行事ができれば良いと考えています。一步一步頑張りますのでよろしくお願い申し上げます。



面会の時に洗濯物たたみのお手伝いをしています。
(原田)

平成30年度 白十字ホーム 行事予定

7月21日(土)	納涼大会
9月15日(土)	敬老会 (家族会総会)
10月14日(日)	八国山フリーマーケット
10月27日(土)	運動会
11月 4日(日)	市民文化祭
12月25日(火)	クリスマス会
平成31年 1月19日(土)	新年会



介護の担い手不足を考える

白十字ホーム ホーム長 西岡 修

青葉の美しい1年で一番爽やかな季節ですが、福祉や介護のところでは、爽やかとはいかない深刻な問題があります。

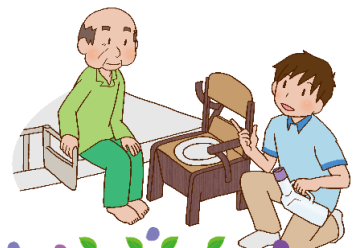
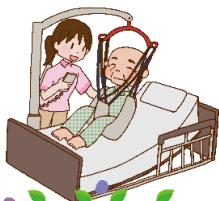
それは「担い手」のことです。言い換えれば「介護職員」のなり手不足の問題です。担い手がいない！ということが深刻になってきて、かれこれ10年。ますます深刻になっています。高校や大学新卒者の介護の就職希望者も激減しています。有効求人倍率も全産業平均で1.3倍くらいのところ、都内の介護職員の有効求人倍率は6倍前後で推移しています。2000年に介護保険制度がはじまった頃には、求職者が介護事業所に押しかけるほどでしたし、介護系の専門学校なども雨後の筍のように開校する状況でした。

担い手不足の原因として、少子化の影響が強調されていますが、実は「介護」の仕事の魅力が失われたことが大きいのではないかと思います。高校生や大学生の進路指導では、指導の先生から「介護の仕事はやめた方がよい」、親御さんからは「3K職場だからやめておいたら」といわるようです。中学や高校の社会科系の教科書にも、介護の仕事は給料が安く、仕事がきついと記述されて散々です。学校の先生も親御さんもすすめない「介護の仕事」ですから、介護福祉士の養成校が閑古鳥、介護事業所に担い手が集まらないのも当然といえます。

しかし、ここで皆さんに「我が事」として考えていただきたいのです。学校の先生も親御さんも、いずれ高齢者となり、ご自身の介護が必要となる日が訪れます。またその前には、ご両親の介護も控えています。その時、誰に介護をしてもらうことになるのでしょうか。

高齢化が進む日本。2025年には、団塊の世代が後期高齢者である75歳以上になります。どこで、誰が介護するのか、されたいのかが、実に切実な問題になっています。内閣府の調査によると、介護保険制度が始まった頃には、自宅(在宅)で介護を受けたい人が過半数でしたが、最近の調査では自宅(在宅)は37%、施設は58%と逆転しています。その理由は、「家族の負担」です。具体的には「家族に迷惑をかけたくない」、「専門的な介護を受けられる」ことでした。現実には、多くの方たちが、専門的な介護の担い手を「3K」だと受け止めています。このままではご自分自身が絶対に困るのに、「3K」といって人ごとです。高齢社会にあって、誰が「介護」を担うのでしょうか。制度も人々の認識や理解も、「介護」をみくびって大切にしていないように思います。そのことは制度改革の議論にもみられています。

介護の仕事には、例えば排泄の介護があります。他人の排泄物の処理をすることへの嫌悪感があると思います。しかし実際の介護では、便秘しやすい高齢者の快適な排泄やおむつをしていてもトイレにお連れして楽な姿勢で気持ちよい排泄を介護することなどを通して、介護を受ける方の生活の質を高めます。こういったことが、介護の仕事の魅力であり充実感につながることを是非知っていただきたいと思います。白十字ホームでも、そういう介護の魅力や充実感を発信することが、担い手を増やす手立てになるように思います。



祝

白十字ホーム開園50周年記念シンポジウム 「明日に繋がたい白十字ホームのケア、地域とともに」

平成29年11月30日(木) 八国苑ホールにて記念式典、記念講演、記念シンポジウムが開催されました。開会にあたり、白十字会理事長川村晴也様、家族会会長宮木美保様よりご挨拶、東村山市市長渡部尚様よりご祝辞をいただきました。



写真で振り返る白十字ホーム50年、西岡ホーム長の解説で懐かしい写真が披露されました。小笠原裕次先生の「白十字ホームのこれまでと、これからの高齢福祉と施設」記念講演が行われました。記念シンポジウムは中京大学教授野口典子氏をコーディネーターとして地域で様々な取り組みをされているシンポジストが発言をしました。

